

イ 小児科定点

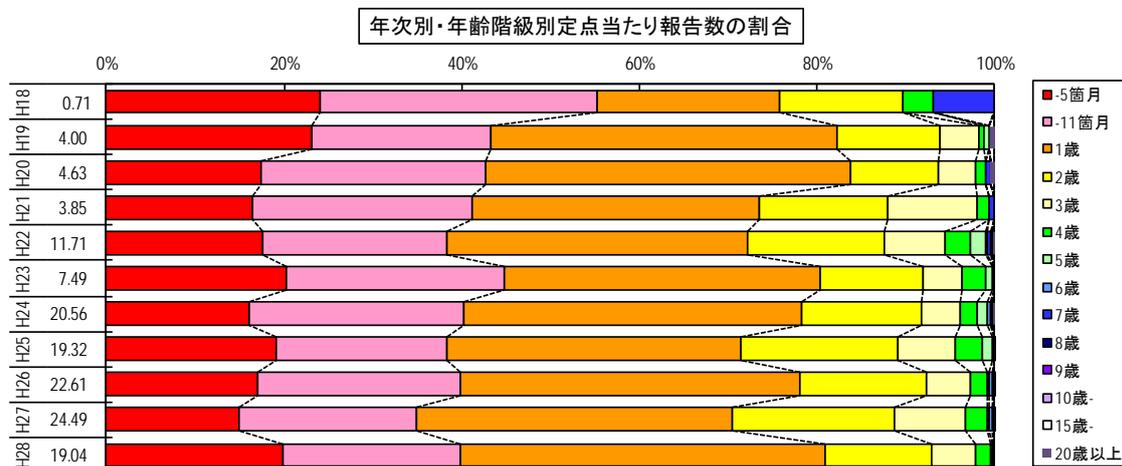
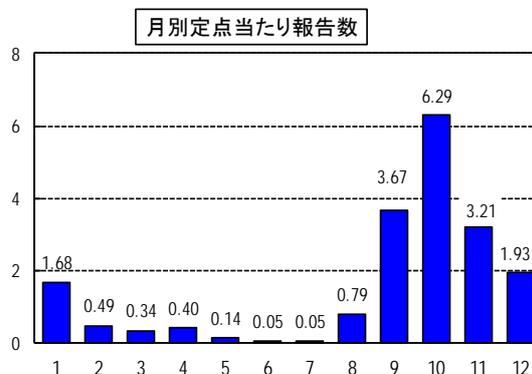
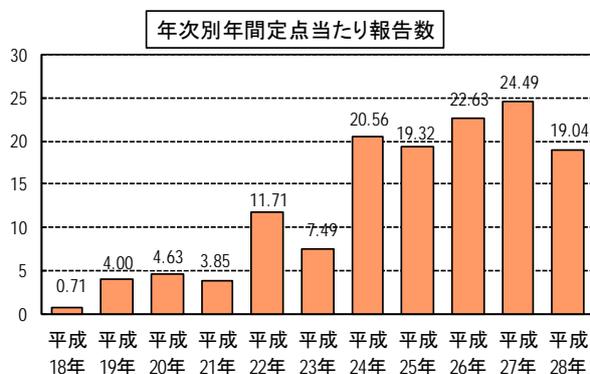
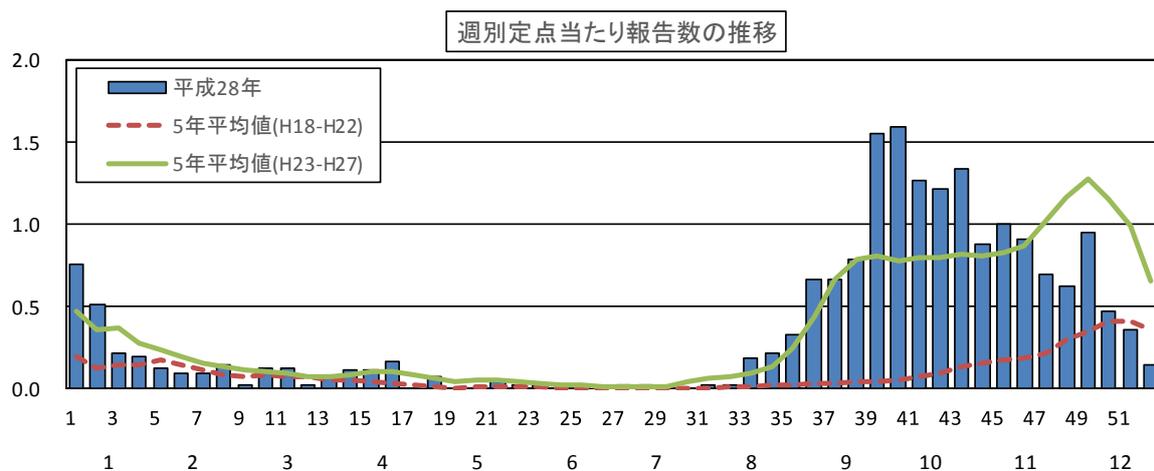
(7) R Sウイルス感染症

平成28年は年間報告数797例、年間定点当たり報告数19.04であり、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比は1.01、前年比は0.78であった。

年間定点当たり報告数が過去10年の中で平成27年、26年、24年、25年に次いで多く、ここ数年報告数の多い傾向が続いている。

月別定点当たり報告数では10月(6.29)、9月(3.67)、11月(3.21)が多かった。

年齢階級別では、1歳(41.0%)が最も多く、次いで6～11箇月(20.1%)、0～5箇月(19.8%)、2歳(12.0%)の順となり、2歳以下が全体の92.9%を占めた。



(イ) 咽頭結膜熱

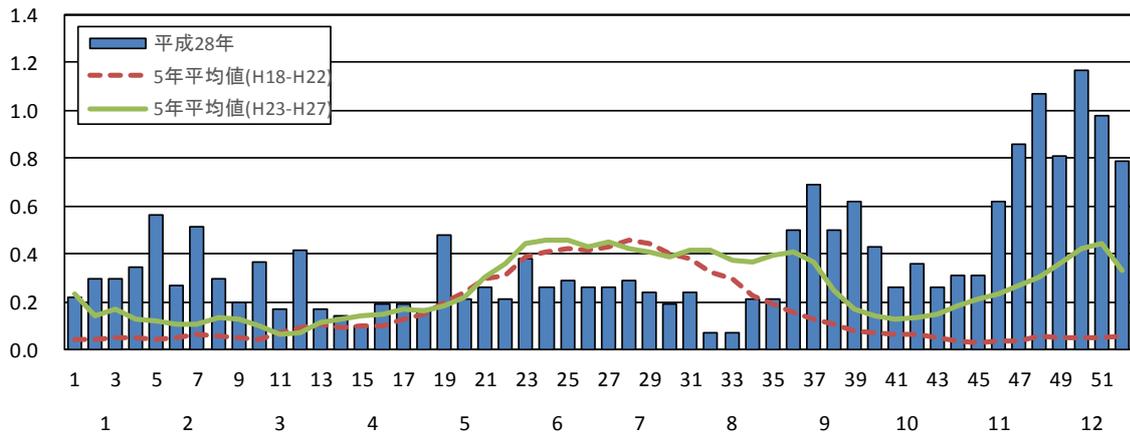
平成28年は年間報告数817例、年間定点当たり報告数19.55、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.47、前年比1.32であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べると、最も多かった平成26年に次いで多かった。

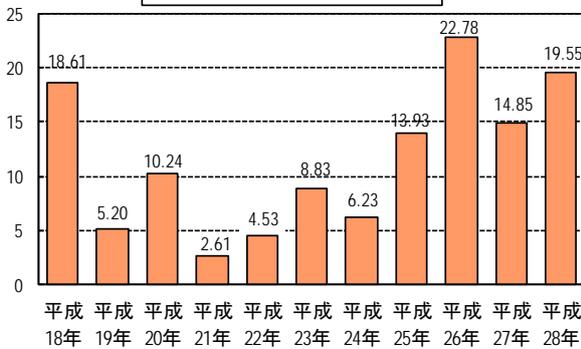
月別定点当たり報告数では、12月(3.74)、11月(2.86)が多かった。

年齢階級別では、1歳(26.2%)が最も多く、次いで2歳(15.3%)、3歳(13.2%)、4歳(12.0%)の順となり、1～4歳が全体の66.7%を占めた。

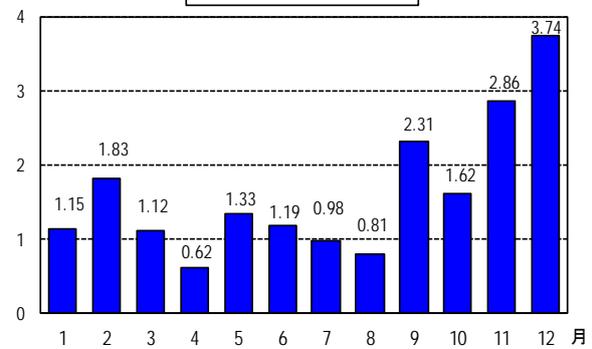
週別定点当たり報告数の推移



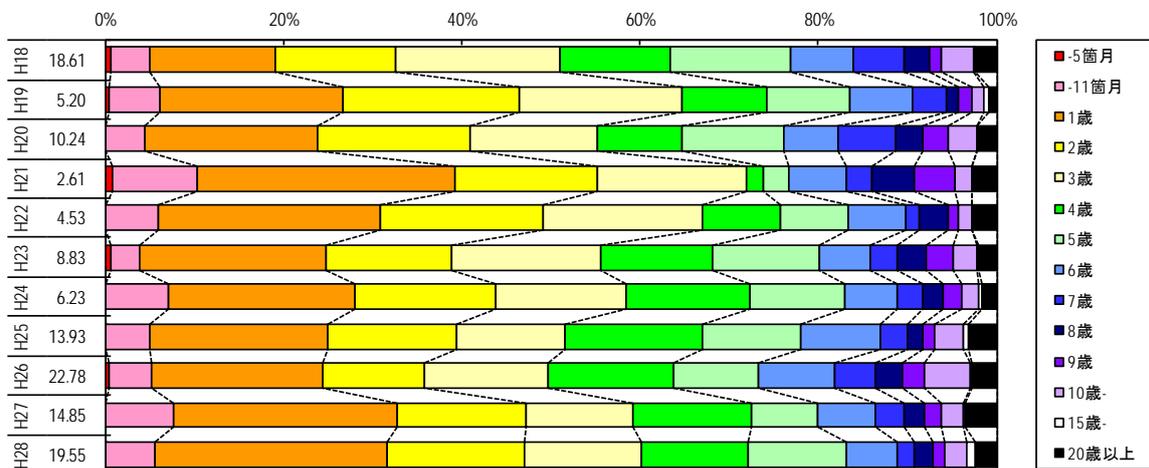
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



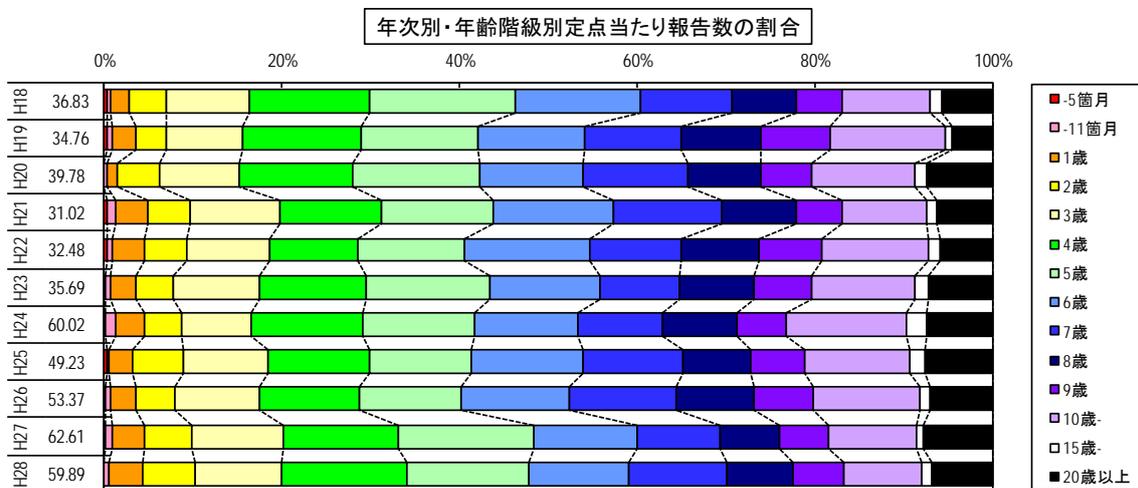
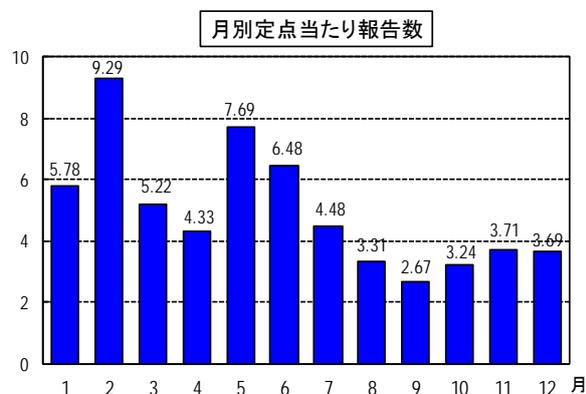
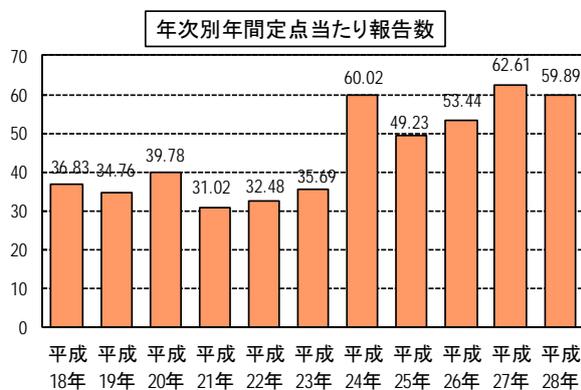
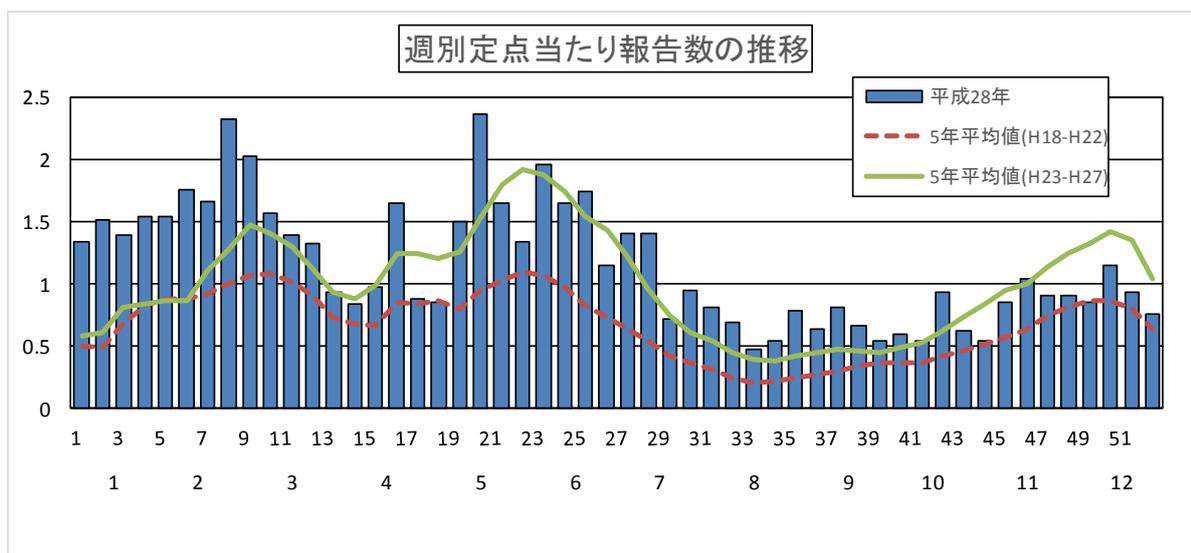
(ウ) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

平成28年は年間報告数2,495例、年間定点当たり報告数59.89、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.15、前年比0.96であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べ、平成27年、24年に次いで多かった。

月別定点当たり報告数では、2月(9.29)、5月(7.69)の順に多かった。

年齢階級別では、4歳(14.0%)が最も多く、次いで5歳(13.8%)、6歳(11.2%)、7歳(11.1%)の順となり、4歳～7歳が50.1%を占めた。



(エ) 感染性胃腸炎

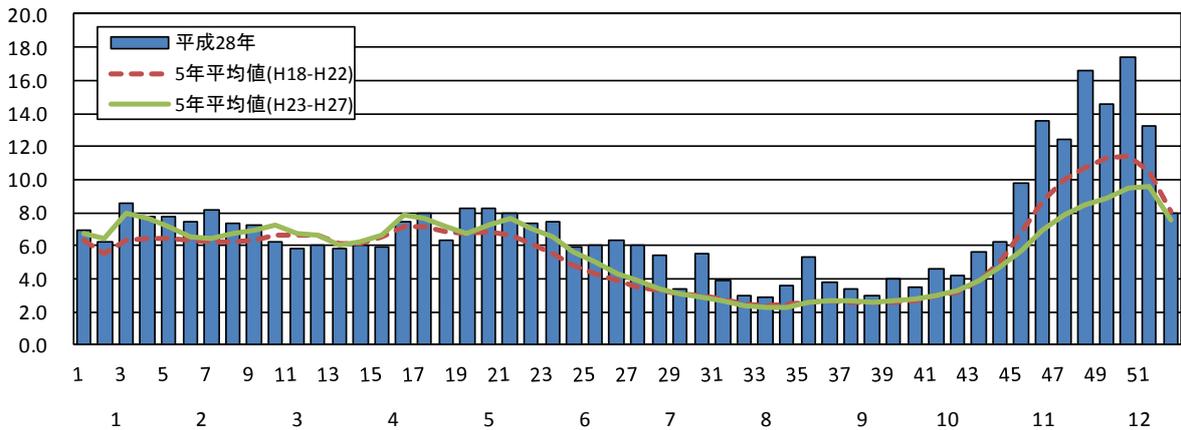
平成28年は年間報告数15,246例、年間定点当たり報告数365.18、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.25、前年比1.26であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べ最も多かった。

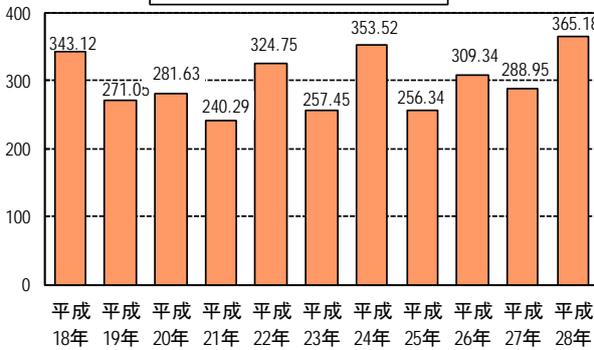
月別定点当たり報告数では12月(53.02)、11月(52.33)の順に多く、7月～9月はやや少なかった。

年齢階級別では、1歳(14.3%)が最も多く、次いで2歳(11.4%)、20歳以上(10.3%)となっていた。1～4歳が全体の44.1%を占めた。

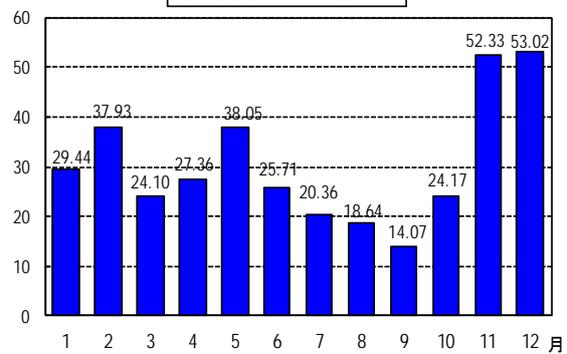
週別定点当たり報告数の推移



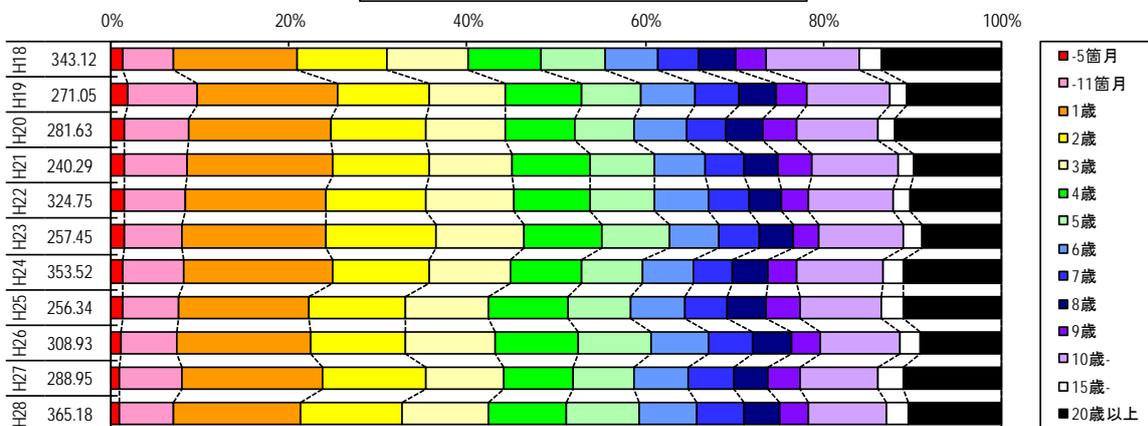
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



(オ) 水痘

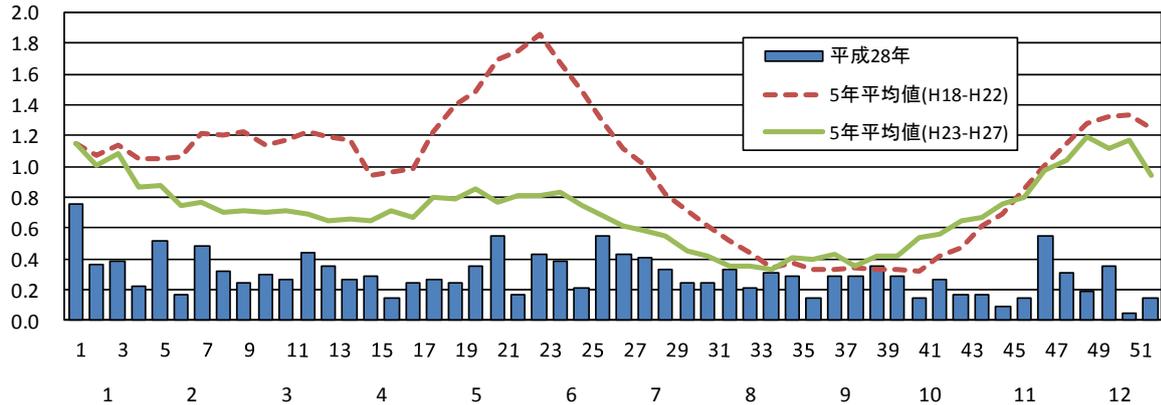
平成28年は年間報告数651例、年間定点当たり報告数15.61、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.42、前年比0.89であった。

年間定点当たり報告数が平成25年から4年連続して減少し、過去10年間で最少となった。

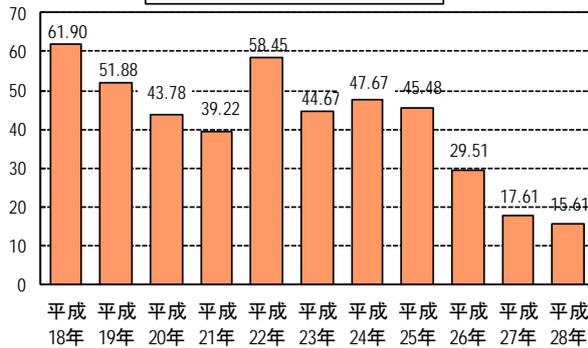
月別定点当たり報告数では、1月及び2月(1.73)が多かった。

年齢階級別では、5歳(15.1%)に次いで、4歳(13.2%)、1歳(11.4%)、3歳(11.2%)、2歳(10.4%)の順に多く、1～5歳が全体の61.3%を占めた。

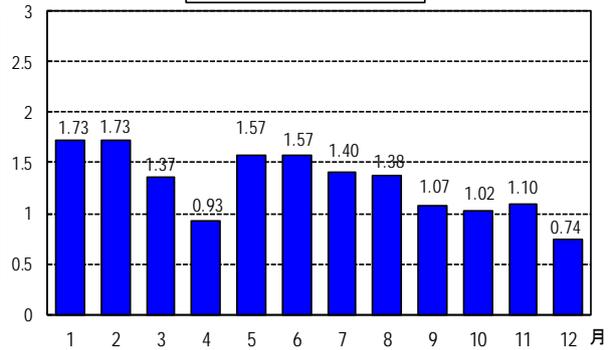
週別定点当たり報告数の推移



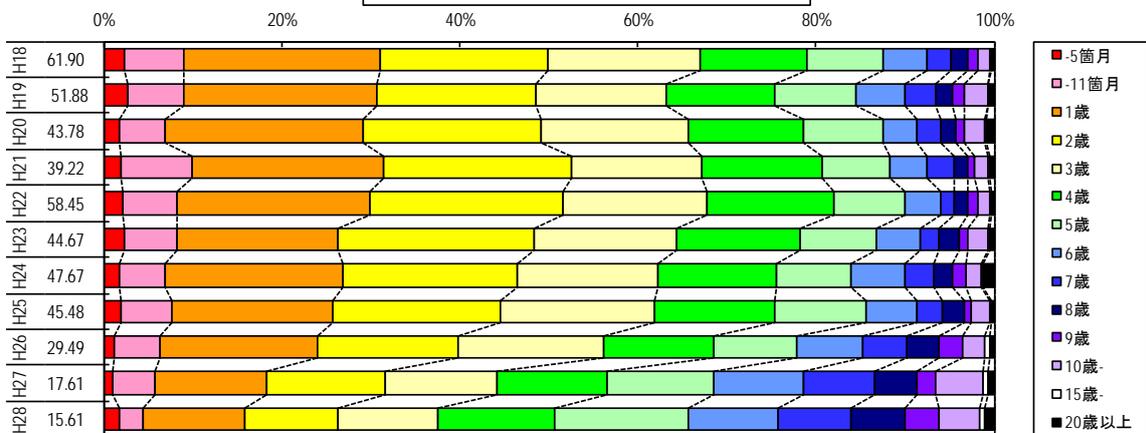
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



(カ) 手足口病

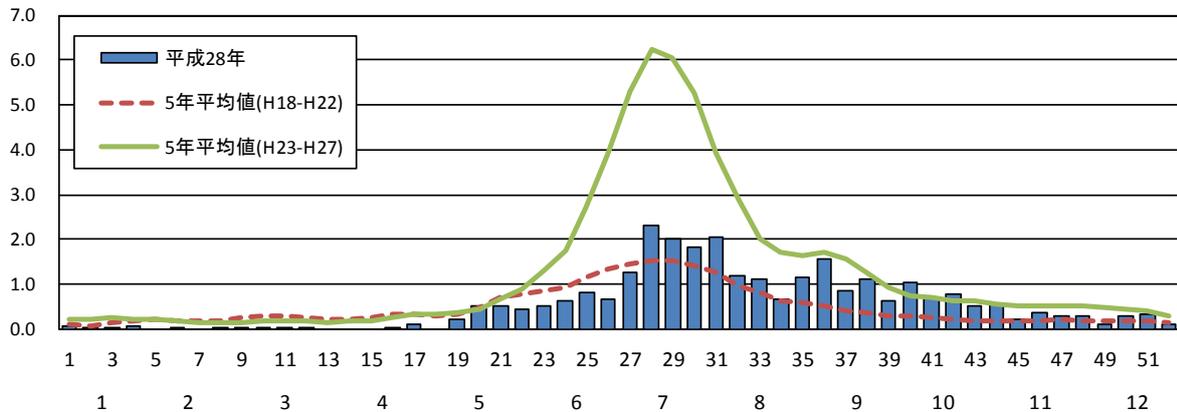
平成28年は年間報告数が1,178例、年間定点当たり報告数は28.05、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.44、前年比0.21であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べると、平成24年、19年、21年、26年、18年に次いで少なかった。

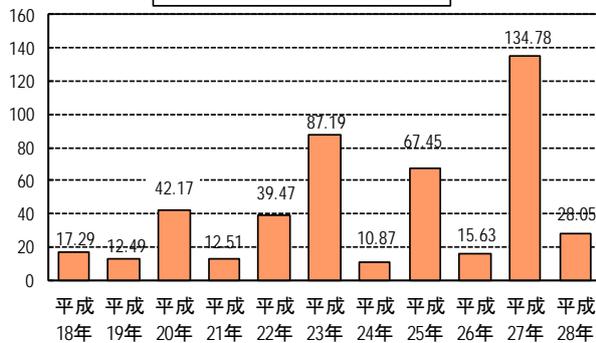
月別定点当たり報告数は、7月(7.38)、8月(6.14)、9月(4.19)の順に多く、1月～4月の報告数は少なかった。

年齢階級別では、1歳(29.2%)が最も多く、次いで2歳(21.5%)、3歳(14.2%)の順となり、1～4歳が全体の73.7%を占めた。

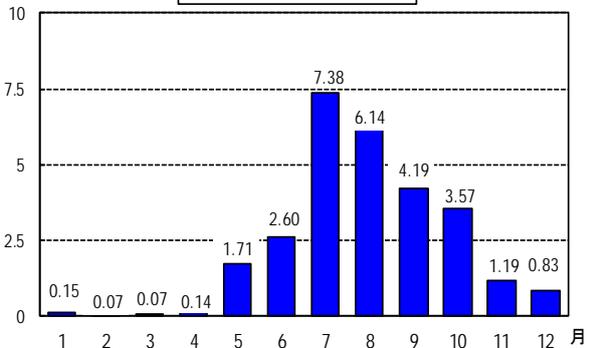
週別定点当たり報告数の推移



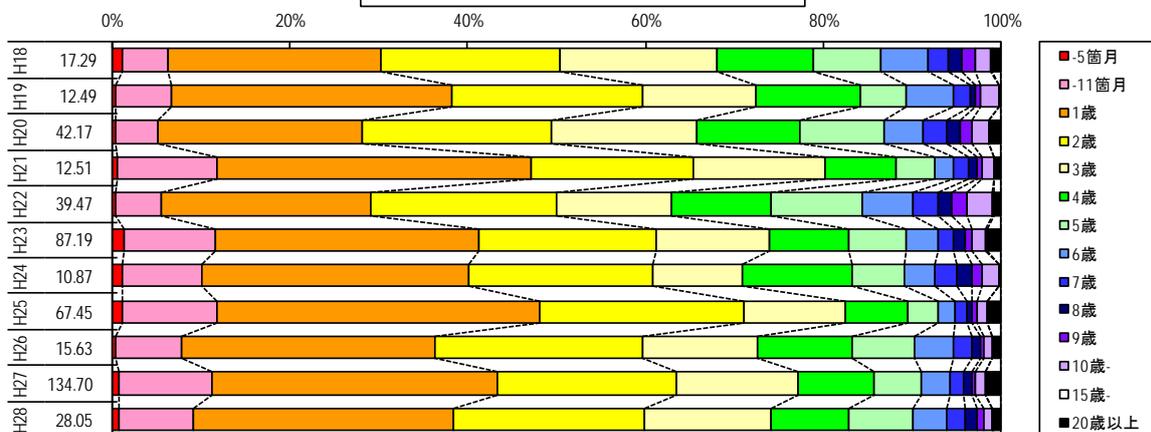
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



(キ) 伝染性紅斑

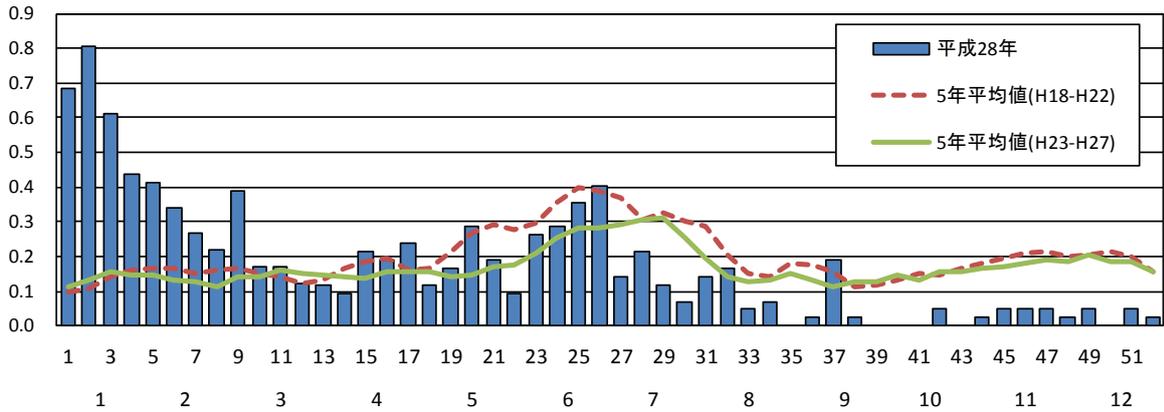
平成28年は年間報告数383例、年間定点当たり報告数9.23、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.04、前年比0.49であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べると平成18年、27年、23年、22年、19年に次いで多かった。

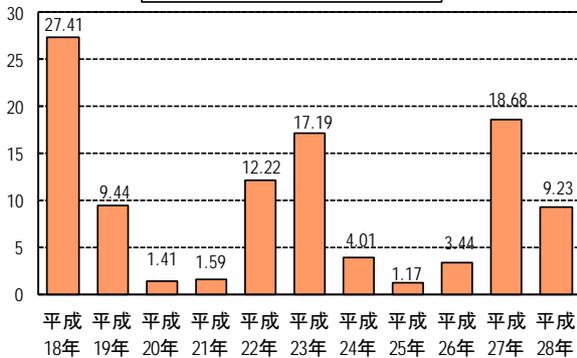
月別定点当たり報告数では、1月(2.54)が最も多く、次いで2月(1.63)、6月(1.31)の順に多かった。

年齢階級別では、4歳(16.7%)が最も多く、次いで5歳(15.4%)、6歳(14.1%)の順であった。

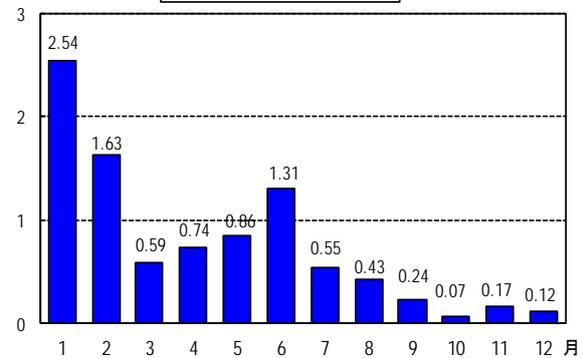
週別定点当たり報告数の推移



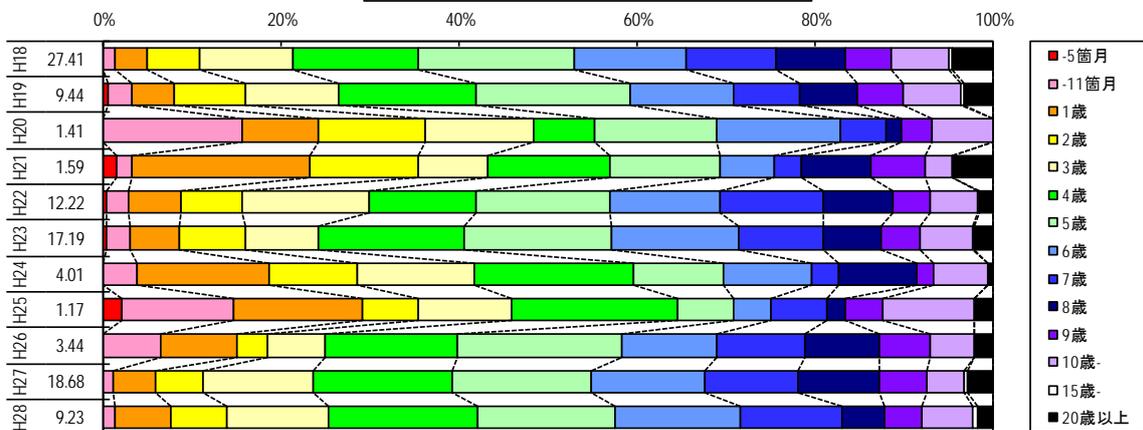
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



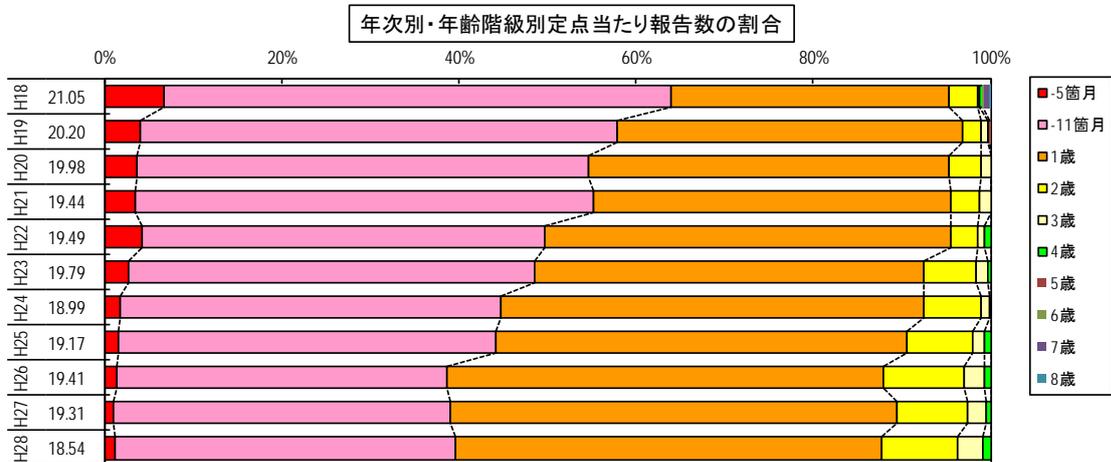
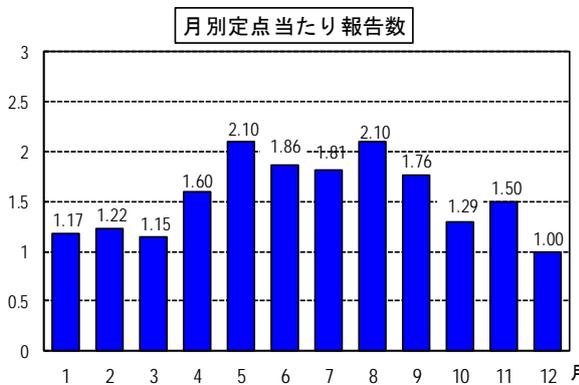
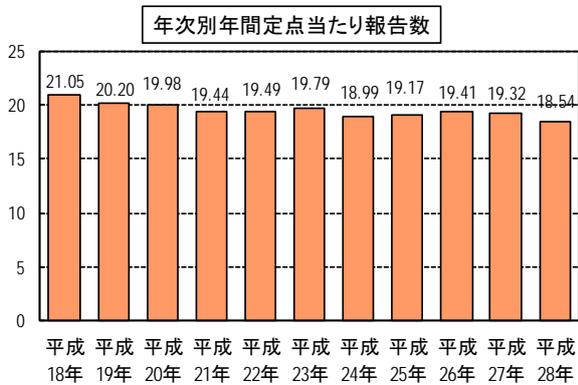
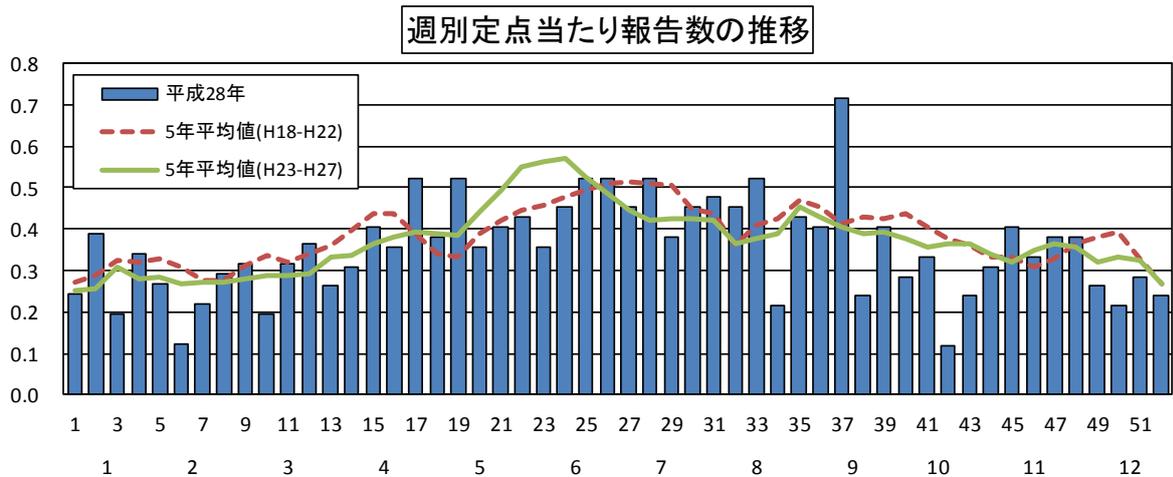
(ウ) 突発性発しん

平成28年は年間報告数775例、年間定点当たり報告数18.54、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.96、前年比0.96であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べると、すべての年度でほとんど変化がないものの、最も少なかった。

月別定点当たり報告数では、8月及び5月(2.10)が最も多く、次いで6月(1.86)、7月(1.81)の順に多かった。

年齢階級別では、1歳(48.1%)が約半数を占め、次いで6箇月～11箇月(38.3%)の順で、1歳以下が全体の87.7%を占めた。

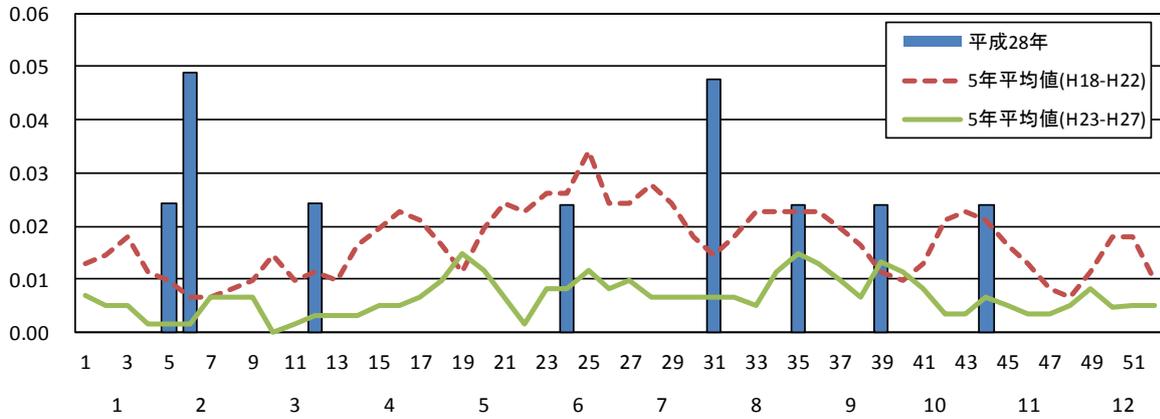


(カ) 百日咳

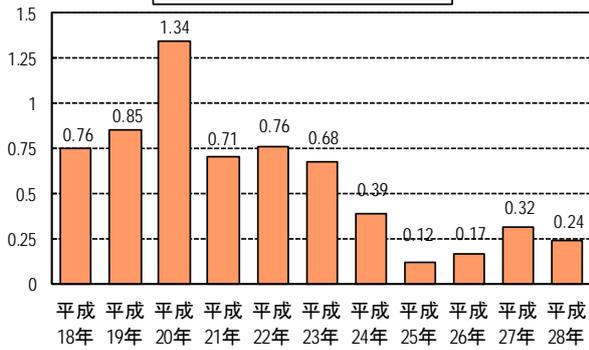
平成28年は年間報告数10例、年間定点当たり報告数0.24、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.71、前年比0.76であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べると、平成25年、平成26年に次いで少なかった。

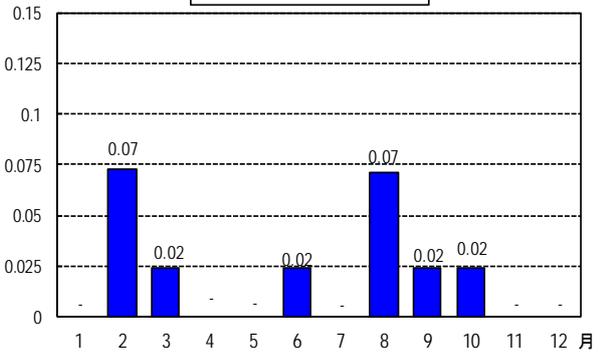
週別定点当たり報告数の推移



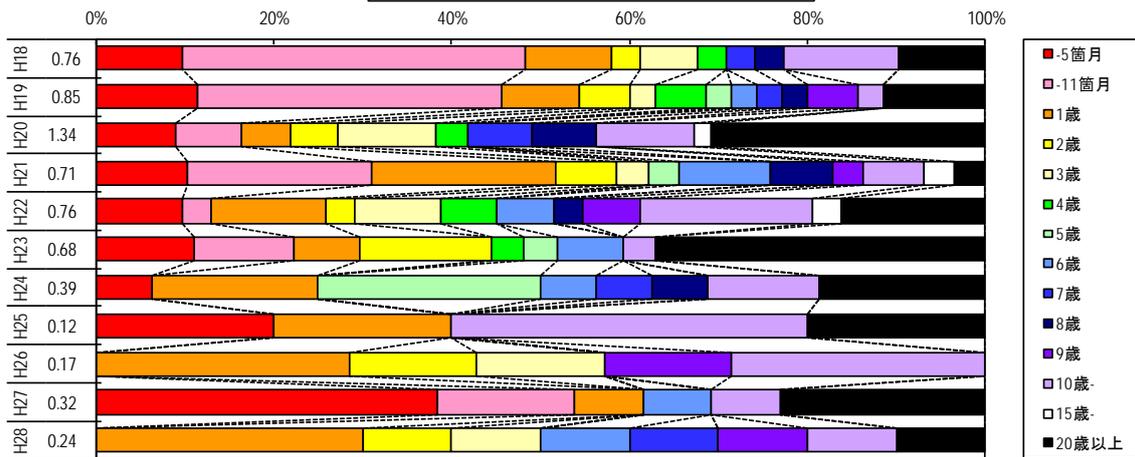
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



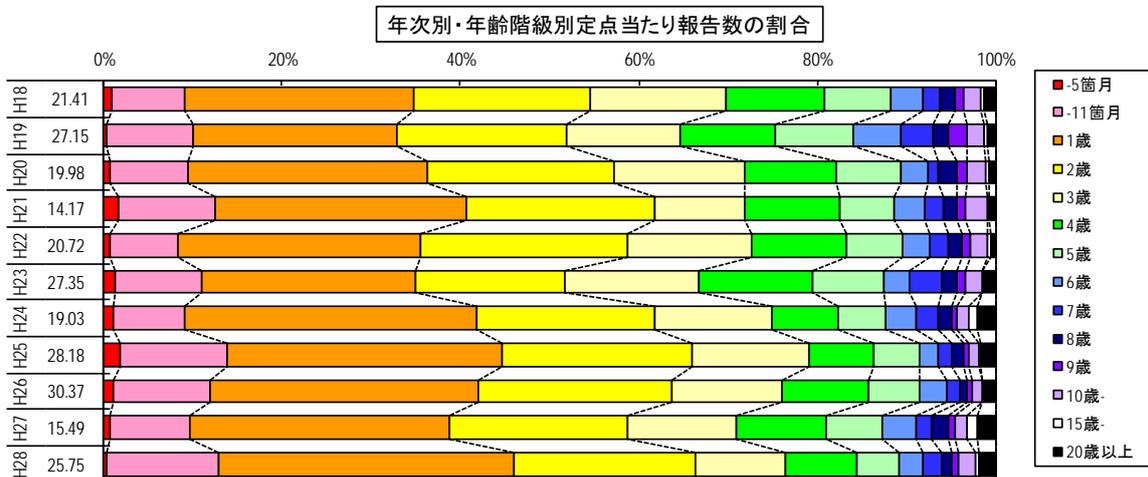
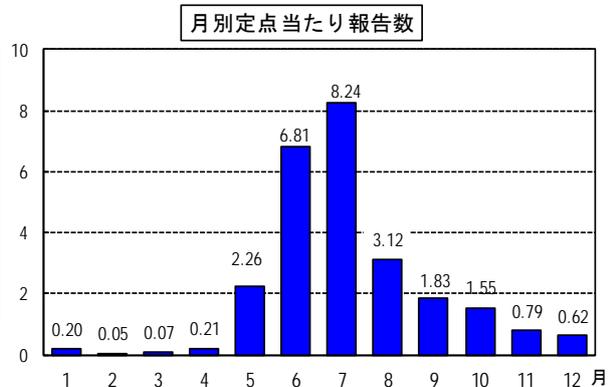
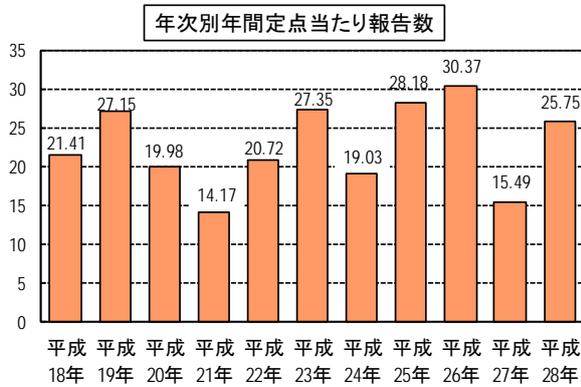
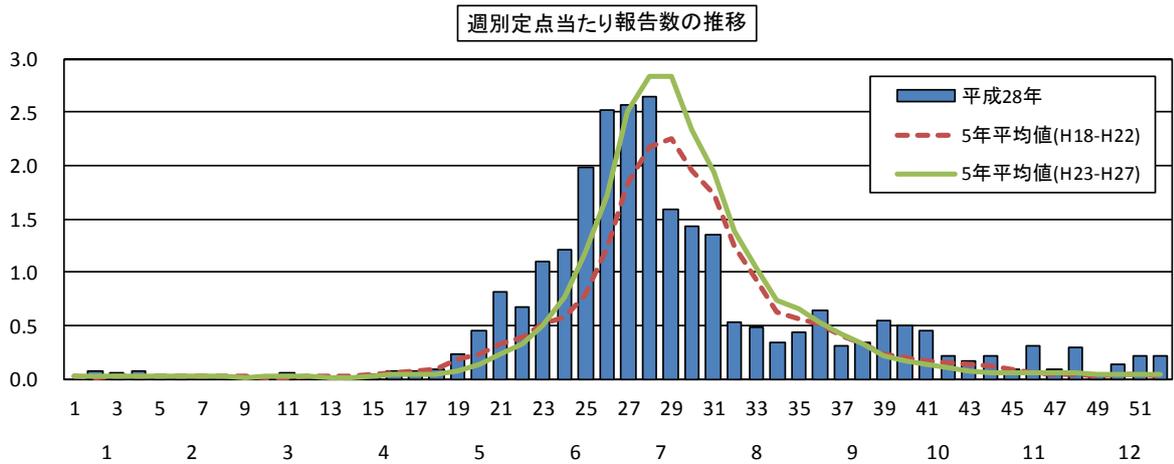
(ロ) ヘルパンギーナ

平成28年は年間報告数1,081例、年間定点当たり報告数25.75、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.07、前年比1.66であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べると、平成26年、25年、23年、19年に次いで多かった。

月別定点当たり報告数では夏季に多く、7月(8.24)、6月(6.81)、8月(3.12)の順であった。

年齢階級別では、1歳(33.1%)が最も多く、次いで2歳(20.4%)、6箇月～11箇月(12.5%)、3歳(10.1%)の順で、6箇月～3歳が全体の76.1%を占めた。



(オ) 流行性耳下腺炎

平成28年は年間報告数1,782例、年間定点当たり報告数42.59、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比4.45、前年比3.04であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べると、平成22年に次いで多かった。

月別定点当たり報告数では、10月(6.40)、8月(5.05)、9月(4.74)の順に多かった。

年齢階級別では、5歳(14.8%)、次いで6歳(14.2%)、4歳(12.3%)の順で、3～6歳が全体の51.5%を占めた。

